[redacted]

上申ス

[redacted]

[redacted]

[redacted]

声ハ日露交戦後諸方面ニ高マリ且明ノ士ハ自国政
ヲ改革シ諸方面ニ高マリ現政ノ腐敗ニ基クモノトナレ
敗ノ原因ヲ以テ現政ノ改革ノ実ヲ挙ケント欲スルモノ
之ヲ好機トシテ内政改革ニ手ヲ付シ昨年
指出シタ「プレヴエ」氏ハ刺客ノ手ニ殪レ昨年
十月九日ヲ以テ「スヴイアトポルク、ミルスキー」公爵ガ
内務大臣ニ任セラルヽニ至リタル結果ハ
廣ク世論ハ政府ノ改革ニ対シ既ニ昨年九月
十六日公爵一五一号ヲ以テ其中ノ改革ニ
三ヶ条ノ露国改革ノ大方針ニ
基ク事ナキ限リ露国内政上ニ急激ナル
変動ヲ見ルコト関ヲ望ムカサレトモ同政府
於テハ日露戦争ノ難局ニ際シテ内閣ハ
在獨日本公使館用

交渉ヲ好機トシテ力メテ人民ヲ懐柔スルノ
方針ヲ取ルニ至リタルモノニシテ同公爵ニ於テハ
其方針ニ準據シ最モ重ヲ地方自治ノ
基礎ニ置キ之ヲ以テ内政改革ノ基礎トスル
ニ意アルモノトス而シテ昨年十月九日社説
西暦二月ヲ以テ省ル「マツクコンシツリ」氏ノ在露
在露米国大使ハ露国ニ於テ内閣改革
説ヲタル自説ニ依ルモ露国ニ於テ
任命ヲ露国ニ於テ最モ歓迎セラレ四大臣
事業自由主義ヲ採ラスシテ人
民ノ不満ヲ充タシ事情ノ許ス限リ行
政改革ヲ実行スルニ力メ又猶太人ニ対シテモ
相当ノ待遇ヲ与ヘ露国内

改革ハ一般ノ状況ニ目下ノ処大ニ有望ナリトノ事ニ候ヘトモ果テハスヴィアトポルク、ミルスキー、公爵就任ノ節ハ先ツ〻部下ニ對シ施政ノ方針ヲ示シテ行政ノ要路ニ人民ニ向ヒ親切ナルニ如ク訓令ヲ説キ又外国ニ對シテハ各国ノ屬官ヲシテ意見ヲ披表シ或ハ外国ノ寛大ニシテ武断事業ヲ裁判ヲ公開スルノ先例ヲ開クヲ是迄天皇ト大臣トノ間ニ生シタル如キ弊アリシコトヲ果シテ如何ニ改革党ノ観アリシモ元ト憲法政府ノ大方針ニシテ憲動ヲ見サル限リ別段満足ナル改革ノ実ヲ挙クルヲ疑フ容レサル所ニシテ

在獨日本公使館用

内公爵ノ後和的政策ハ一方ニハ後来勢力ニ居タル民論ノ敦興ヲ来スト共ニ他方ニハ政府ノ実権ヲ掌握セル宮中派ニ対シ守舊党ノ激烈ナル反動ヲ招キ露国内政上稀有ノ紛交ヲ生スルニ心ヲ砕ケリ

既ニ昨年十月十四日付電報ヲ以テ不取敢貴方ニ通シ置タルカ如ク穏近露都ヲ極度ニ騒擾ニ陥レタル数件ノ暴動ハ内務大臣ヲ殺害シ一ヶ月ニ満タスシテ既ニ内務大臣ノ後任ニ対シ政府部内ニ対シ政府部内ニ宮中派ノ及抗ヲ招クニ至リ秋中内大臣ノ政策ハ果シテ専制政治ノ改革ヲ憲法ヲ附與スルニ至ル危険アリトノ理由ノ下ニ内

REEL No. 1-1079

0131

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

REEL No. 1-1079

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

実害激甚ナル所以ヲ述ヘ之ヲ匡正シテ国
政及国体ノ正当ナル発達ヲ遂ケシメンカ為ニ
人民ノ身体及居住不可侵ノ権利ヲ保護シ人民ヲ林立鎮
ニシテ司法ヲ独立ニ依ル御擁護ニ人民ヲ林立鎮
生命ニ刑ニ亦又ハ権利ヲ侵奪スル又行政行為ノ効力ヲ確保セン
ヲ期スルヲ、ナシテ又行政行為ノ効力ヲ確保セン
カ為ニ官吏ノ負フヘキ民刑事上ノ責任ヲ
設定シ人官吏ヲ啓蒙シ社会的需要ヲ充
実シ且カ為ニ信仰言論出版集会及
結社ノ自由ヲ許スコトヲ必要ナリトシ又国
政及社会ノ健全ナル発達ヲ期セシニ人民
ヲシテ自治ノ如セシムルニ若クハナシ而シテ人民
人民ノ最大多数ヲ占ムルカ故ニ之ヲ以テ態度
根本的改革ヲ敢行セシカ為メ人民ト他ノ階
級ニ属スルモノトヲ問ハス凡ソ人民ニ一様ニ権
利ヲ與ヘ行政官ノ無益ナル干渉ヲ排シ之ヲ
権利保護ノ目的ニ向ヒ完全ナル司法制
ナシ作ルコト、ナレ共未タ嘗テムストヴオル及市町村
ヲ改造シテ地方ニ於ケル事務ハ凡ソ之ヲ独
立自営ニ任セシメ人民ヲシテ代表者ヲ撰出シテ
豫算ニ参與シ且行政機関ノ監督ヲ
為サシムルヲ必要ナリト説キ第五条ニ目下内
治ノ公共ニ多事多難ナル時ニ当リ之ヲ
ストヴオ代表者ノ集合ニ委スルヲ以テ国民ノ
自由意思ニ基ク撰出ニシテ代表者ヲ集
ニシテ権力ニ依リ国務ヲ行フニ至ラシムル切

REEL No. 1-1079

0135

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

社会ニ実現シ共力主義ノ成ニ基キ非戦ナル者達ニ訴ヘルベキ
旨ヲ決議シ居リタリ
右改革案ニ対シ政府ニ参照シタルゼムストヴォ
代表者ハ概ネ憲法ニ名ヲ人士ニシテ十二人ノ者
ヲ数ヘ出来リシ中三十二人ノ者
ハ「ゼムストヴォ」会議議長ノ職ニ立ツルヲ
希望シ居ルモノニ属シ
随テ立人ノ地位ニ有ル者ニ属シ
ノ内閣改革ヲ目的トセル議多ノ種
命令ト要求トノ喚起ニ至テ先ツ此
事社会代表者ハ此者ノ命令ノ催ス
ノ許ノ日ニ市長モ亦
ノ求ノ全国合市長モ亦
在獨日本公使館用

集会ノ許ノ清ナル内閣ハ人民ニ対シ此種
要求ヲ為サシムルト共ニルースキア、
ウエドモスチ、憲法制定ノ必要ヲ論ジ
論文ノ掲ケテ三四ノ社会政党モ人民
代表者ヲ同ジ考ヲ抱キ
説キ「オボエ」ウレシヤ「ゼムストヴォ」
要求ヲ持ス有力ナル憲法
政改革ノ必要ヲ忘ル
政ニ内閣ノ個人ノ生ル際
憲法者名ノ文ヲ
政ニ自由主義ヲ抱キ
改革ノ手段ニ
晩餐ノ名ノ下ニ会合ヲ催シ内

REEL No. 1-1079

0138

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

表者ニ拍手ヲ強ク法律ヲ制定シ又ハ相撲ノ賦課ヲ廃スル事ヲ人民代表者ノ名義ニ対シ国法上責任ヲ負ハシムル行政官吏ノ行為及ビ分ハ法律上有効ナルコトヲ保証スルモノ四項シ第ニ最後ニ此ノ如ク富強ヒニ至ル我ニ基キテ憲法上ノ捕虫ヲ改造スルモノ又ハ絶対的ニ必要ナリト認ムルトキハ重大カラサル確信ト憲法上ノ根拠ニ基ク自由ノ行為ニ上記ノ根本的改革ヲ実行スルメ議院ナシ全長ノ事情ニ鑑ミ自由ノ撰出セラレタル代表者ノ多数ヲ以テ撰挙権ノ自由及ビ撰出セラレタル代表者ノ不可侵ニ関スル必要ナル法律上ノ条件ヲ確定セラルルメ国会ニ提出セラレタル日ニ至リ

追ノ中ニ政治及ビ宗教上犯罪者ノ大赦ヲ宣告シ且ツ人民撰挙権ノ自由及ビ撰出セラレタル代表者ノ不可侵ニ関スル必要ナル法律上ノ条件ヲ確定セラルルメ国会ニ提出セラレタル日ニ至リ

曙ヲ及ボサン（ママ）ものと言ヲ宣言ス

市長「ガリチン」公爵ノ手ヲ強ク内閣ニ提出セラルルコトヲ望ム

REEL No. 1-1079

0139

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

参照　該意見書ニ先ツモスコウ市政ノ現況及モスコウ政府トノ関係ニ於テ自治制ノ不備ト政治ノ欠点トニ関シ之カ救済法トシテ

一　行政費ノ節減ニ対シ法律ヲ以テ人民ニ優遇ニ階級及地位ニ應シテ段々ヲ設ケラレタルハ除外法ヲ全廃シ

一　三信仰、言論、出版、集会及結社ノ自由ヲ保証シ、四人民ノ自由選出ニ係ル代表者ノ協力ニヨリ是ハ根本的改革ヲ確定シ、五人民代表者ヲシテ行政官ノ行為ニ対シ監督ヲ加ヘシムル事ニ対シ絶対的ノ必要アリト認ム

右ノ言葉居事ハ去ル四月十七日高級ニ於テ五百九十名許ノ土木工業ノ和解ヲ保護シ係ハ高級ニ於テハ工業ノ和解ヲ保護シ

在獨日本公使館用

方法ヲ講ズルトノ名ニ於テ一ニ曖昧ノ会ヲ開キ席上政談ニ及ヒ高級ニ於テ五百人ニ達セサレハ二百人ニ達セサレハ二百人ニ達セサレハ二

主ノ為ニ帝国ニ生ル人心ノ奮ヒ我国ノ為ニ
前途ノ為ニ了ニ学生ハ国家ノ盛衰ニ
内政改革ノ唱道ニ従ヒ熱血
義ニ学生ハ学生ノ義戰精神ヲ発揮セン革命ノ元気ト
我等ハ不人気ノ極ニ達シ学生ノ騒動ニ
煽動ニテ騒動ニ
三千ノ「アレキサンドル」ヲ三立憲政治ノ為ニ
ノ為ニ帝国ニ於テカザンニ寺ニ於テ祈祷会ヲ催シ
文武百官ヲ列シテ時ヲ大学ニ生ル
ニ市街ニ於テ学生ノ生ル寺院内ニ集リテ示
威運動ヲ為シテ政府ニ
七ヶ所ニ於テ騒擾ヲ生ジ政府ハ騒擾ノ
ニ及ヒ遂ニ又十一日ニ帝都ニ於テ大学
在獨日本公使館用

学生中政治ニ
名ノ隊ヲ為シ
呼ビ「オウスキー」ヲ横ヒ
大学生ノ他ノ隊ハ帝国ニ教ヲ唱ヘテ前隊ノ
妨害セント試ミ警官ノ干渉ニ
遂ニ激ナル演説ヲ
年ノ中止ヲ生ス
不穏ノ形況アルヲ
騒ヲ生ス学生ノ世間騒
騒擾ヲ
強ニ西園寺内閣ハ
多数ノ学生ハ
政府ニ

我軍ニ反対セン者百余
我軍中止ヲ
唱ヘ
八日大学ニ於テ
政府ニ改革ヲ
又陸備兵ハ集ニ
ヲ生ス
ヲ
ヲ
ヲ

メンドヤンニシテ十一月十三日ワルソウニ於テハ
群集赤旗ヲ持シ革命ノ歌ヲ唱フルノミ
警官之カ解散ヲ命ズルモ之ニ應セザル
ヨリ止ムヲ一人ノ警官ヲ撃殺シ三人ヲ
負傷セシメタルモ益々暴徒ヲ加フルヨリ安隊ノ
力ニテ僅ニ之ヲ鎮静シタルモ為ニ死者
十人負傷者三十人ヲ生ズル迄ニワルソウニ
於テハ暴徒ノ為ニ商店ハ全ク閉鎖シ
人心恐怖シ居リ拳銃ヲ持ツテ抵抗ヲ試ムル力
ヲメ為ニ兵士負傷シ撃ヲ受ケ居リ者ヲ
拘留スルモ牢獄充満セシカ為ニ已ムヲ得ズ之ヲ
解放スル有様ナリシカ先ヅ暴徒ノ厳
重ナル取締ヲ為ス迄ニ暴徒ノ状ヲ呈ス

在獨日本公使館用

一時平穏ノ状ヲ呈
スルニ至リ又五月廿六日ニ於テハ警備兵ニテ
暴徒ヲ解散シ居ル時ニ暴徒ヲ撃ツ
ヨリ暴徒ハ逃亡シ其後ハ暴徒ノ数万人ニ上リ又
ハ国内ニ於テハ暴徒ノ警備士官病ノ為ニ
出陣ノ為ニ清水中ニ入ル迄ニ軍医ノ
ヲ作ル捕虫ヲ為サシメ殆ト皆実
際健康者ニシテ又ツ軍ケルザーム少將
ヲ捕虫ヲ為ス迄ニ

陸軍ハ四月十日ヨリ露敵ニ対シテ大学生
ヲ徴募シ校男女学生ヲ五百人以上
ヲ以テ辮髪ヲ切ル「不ウスキー」通ニ命令シ
敵国重ノ成ニテ徒ニ不ウスキー制ニ撲滅
セヨ「自由ノ敵」ト云ヒ中止セラレ絶
叫ニ達シ兵隊アル二箇ノ大赤旗ヲ及ヒ騎馬者
ヲ集合セントスルニ及ヒ騎馬者
徒歩ノ憲兵ニ対シ赤旗ヲ
者及抵抗者ヲ捕ヘ
傷者ヲ生ス
捕ヘタル者ヲ
ヲ射撃ニテ
及ヒ騎ニ

群集の解散を動

在獨日本公使館用

ヲ以テ抵抗
ヲ以テ
ヲ
ヲ
ヲ

在獨日本公使館用

REEL No. 1-1079

0144

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

在獨日本公使館用

REEL No. 1-1079

0145

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ノスチョフ「大臣」ウィアトポルク、ミルスキー「カンチョフ」司法大臣「ムラビエフ」内務大臣「ソリスキー」伯爵「イグナチエフ」伯爵「ボロンチョフ、ダシコフ」及つボロンチョフ、ダシコフ「伯爵」ホンレフ「ナ」外務大臣「ノ」ナ、ホ、ス、ア、ル、ス、キ、ー、ア、ル、ス、キ、ー、ア、ル、ス、キ、ー

幸一身ニ係ル事ニ付テハ人心ニ安ンジ難キ事ニ付テハ
或ハ廃ノ事ノ命令各々十二月五日ヲ以テ内
閣改革ニ変ジ詔勅ノ書ニ依リ東久邇宮
殿ヲ出サルルニ至ル心ッ
ニ廃官ノ事ハ政府ハ一方ニ於テ内閣改革ニ
変ジ他方ニ於テ
民間ヲ宮ニ出サルノ魅力ヲ失ハシメタリ
大臣ハ十二月十四日ニ
当日ハ軍閥ノ及モスコリ
改革ニ対シ右ハ憲法政治ノ創設ヲ
目的トセル
レサルモノナリトノ理由ノ下ニ
二十日ノ内閣ニ
在獨日本公使館用

紙

紙ニ付レハモスコウ
官ノ命令ニ依リ前掲モスコウ市会ノ
ヲ市制ニ定メタル権限ヲ
抗議シナストウ時ニ
会ノ権限ニ属セサル
対スル
旨通達ス
又十二月二十二日
前掲
ゼムストヴオ
ニ内務
建白書ヲ
ニ対シ

長ノ云ヘル置ニテ分限ヲ越ヘ月思慮ヲ
欠ケンモノト思ハレ蓋シ露国ノ政ニ変ヲ内発
シ殿ヲカメキヘツヽ（ゼムストウオ）会ノ事ハ露国ノ
セス、ヲ行動ニ及ハ能ハス及権限ハ法律上
明白ニ規定セラレトノ伝ヘシヲセラレタル故ニ
第三号（ハ）（ハ）（ロ）特ニ之ヲ官報ニ掲上ニ
公表シタルモノハ之ニヨリ露帝並政府ハゼムスト
ウオ会ヲ代ニ対シ向ヲ暗示セルモノニ
シテ偶マ此ヲ内政改革ニ対シ露国当局ニ
方ヲ寸ヲ窺ハラシ一材料トセル（キヨト）
思料シ即日陸軍第四九四号ヲ以テ不取
敢発布ヲ遂ケ置ハ露国政府ニ於テハ現政ヲ打破ラカ
果シテ露国政府ハ根本的改革ヲ断行セ之ヲ容レスハ現政権
ヲ離脱シ民心復和ノ手段トシテ
政分的改革ヲ行ハスヲ廟議一歩ヲ進メ
見ヘ四月廿七日公ニスルニ至リ而シテ我カ七月廿四日興
国ハ改革ニ
露ハ新勅旨ノ月頭ニ於テ先ツ露国
露帝ハ能マテ之ヲ推移ヲ苟モ国内
必須ノ事業ニ対シ之カ注目ヲ怠ラサル為ノ
義務ナリト看破シ居レリ若シ国民ハ
重大ナル事業ニ加フルノ要ヲ実際
必要アリト認メタル之ヲ宣言シ勝算
セラ而シテ此ノ如キ事業ヲ実行スルヲ祖国

在獨日本公使館用

REEL No. 1-1079

0148

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

繁栄ハ日本国全人民ヲ挙テ之ニ基ク
コトヲ望ムモノニシテ我カ臣民ハ同情ニ合スルヤ疑ヲ
容レスト雖ト雖ニテ人民ノ多数ハ其ノ
状態ヲ改良シ進歩セシムル事業ニ向ヒ歩ヲ進メ居
ルニテ既ニ此ノ事業ハ
レルヲ以テ言ヲ俟タス宣言ニ名人
状況ト本国ノ計画トヲ打算シ
民ノ権利ノ範囲ヲ拡張シ
左ノ諸項目ヲ国家及社会生活ノ正
当ナル基礎ヲ定メ上ニ於テ堅実ノ歩
ベカラサルモノト認メ
第一 日本ハ法律ニ
要スル事件ハ擁護有司
第二 人民ハ法律ニ
保護セラルル様法律ニ完全ナル効力
第三 ゼムストヴオ及市国体ニ地方ノ
権ニ参与スル為ニ或ル法定
第四 人民ハ法律ニ
範囲内ニテ必要ナル独立ヲ存シ又ハ
第五 事務ニ和
階級ノ代表者ヲ
第六 法廷ノ前ニ四民平等ナルヲ確保
セラルルニ
第七 上又要スル
ヲ確保スルヲ
在獨日本公使館用
白倉有司
キヲ疑フ
堅実ノ歩
独立
裁判所ニ
独立
ヲ加ヘ
キヲ

第四、製造所工作場及工場ニ於ケル労働者保護ハ為メ既ニ予定セラレタル所アルモ更ニ之ヲ擴張シテ國民ノ労働者ヲ保護スルノ方法ヲ設クルニ至ルベキモノト、

第五、元ト公ニ書スル能ハザリシ時代ニ制定セラレタル特別法ニシテ行政官ガ之ノ適用ヲ濫用シ甚敵ノ餘地大ナリシモノハ之ヲ改正シ且ツ其適用範囲ヲ少限ニ止ムベキモノト、

第六、帝国臣民ハ公ニ信仰ヲ表スル自由ヲ有スルノ權利アリ、既ニ今日ニ於テハ年号廃止ノ希望ハ既ニ今日ニ於テハ公ニ表スルモ妨ケナキモノトス、

第七、現行ノ法令ニ国民及帝国臣民ハ内ノ或ル場合ニ住居スル者ノ權利ヲ制限シ居ルモノハ之ヲ改正シテ其制限ヲ減少シ、

第八、現行ノ出版法中ニ於ル出版ノ制限ヲ廃止シ出版ニ関スル法律ハ自治定

田中義一

第一、帝国ニ属スル諸国及帝国臣民ハ宗教信仰及儀典ノ權利ヲ有シ宗教信仰及儀典ノ權利ヲ定ムル法律ヲ改正シ又宗教上ノ儀典ニ関スル法律ニ加ヘタル制限ニシテ該法律ニ明ラカナキモノハ之ヲ廃止シ行政官ノ裁量ニ委ル事ヲ止メシムルコト、

在獨日本公使館用

REEL No. 1-1079

0150

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

セン制限ニ遵據セラレンコトヲ

右ハ項目ヲ列挙シタル所ニテ

政府ニ於テ審議ノ結果遵據スヘキ項目ハ完全ニ内政改革ヲ

実行スルノ方法ニシテ

二ツ目的ニ向ヒ自際有司ハ共同致シ

要スル点ヲ速ニ

合衆国ヒ上記ノ諸項目ニ関シ自己ノ意見

ヲ述ヘ最良ノ方法ヲ講究シ

時ノ要ニ応シ審議ノ結果ヲ

指示シ

右ノ勅旨ヲ以テ共ニ同官

政府ニ告ケ政府ハ右ノ勅旨ヲ

内政改革ニ対スル政府

ヒ指示ヲ内政改革ニ

命ジタリ

能ハサルヲ示セン仏国ノ通告ヲ示シ出セリ四

政府ハ先ツ昨年将軍ヲ

内政改革ニ関シ命令ヲ

ヒ意見ヲ

見ハ独逸又ハ諸国体論

極端ニ

右ノ勢力ハ下ニ成ル

幕府ニ侵入シ

要求シ

国体ト幕府

コレ虚偽ノ幸福ニ眩惑セラルヘキナルヘシ

又以テ

利益ニ帰スヘシ

動カ

政府ハ

ヲ敵国ノ

ヲ自負セサルモノナリ

REEL No. 1-1079

0151

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

政府ハ国内ノ治安ヲ害セントスルニ対シテハ国ハ秩序及公衆ノ安寧ヲ
防護スルニ足ル法律ヲ有スト信ズ
宜シク公安ヲ害シ又ハ政府及対外
関係ヲ害スル恐アル動作ヲ為スモノハ皆ソノ権能ニ
属スルモノニシテ犯罪者ハ法律ヲ以テ処セサル
カラス而シテソノ責任ハ
真ニ殊ニ官吏ニ任セサルヘカラスト雖モ
ソノ一度市ニ出テ公衆ノ怒リ煽動スルカ如キ儀
出ルモノハ必ス法律ヲ以テ
サルヘカラス、又我カ政府ハ
在獨日本公使館用

一日モ早ク責任ノ大ナルヲ思ヒ所分慎ミ
来セル人心ノ興ヒ安ンスルニ
力セザルカラスト雖モ
旨ハ十二月二十八日ノ詔書ニ
乃チ我カ政府ハ一方ニハ官吏ニ勅旨ニ
依リ内政改革ノ大綱ヲ公表シ人心ノ復
和ヲ謀ルト共ニ他方ニハ政府共示ヲ出シテ
内政改革ニ動ク抑陸海軍ハ
ソノ見上ニハ内政改革ニ動モ
海ノ外ニ出タルヤノ観アルモ
ハルニ足ラサル事ハ事理ノ白疑ヲ容レサル
所ナリ抑モ
政府ハ内政改革ニ関シ

REEL No. 1-1079

0152

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

詔勅若クハ勅旨ノ出タルニテハ従来一再ニテ止マラス、最近ニテハ明治三年慶應二月二十六日ノ詔勅ノ如キ云ヒツヲ以テ氏ノ強責及ハ
事ニ及ヒ二係ハラス不実ニ帰シタル場合ニ於テ前ノ如ク
スルニテ学ニ立文ニ帰シタル場合ニ於テ前ノ如ク
ヤ之ニ対スル国民ノ勅旨ハ只僅ニ結果ヲ
改革ノ主ヲ公示シタルニ止マリ之ニ対スル既
陸ノ例ニ鑑ミ之ヲ実行セサル怨言ヲ
ヲ以テ改革ニ対キ之ヲ根本的改革ノ勢
理セス有識ノ士ヲシテ満足セシムル能ハサル
大ニ時ニ及ヒ而シテ改革運動
本年上セシモノハ青年無気ノ徒若ハ慎重
ナキ非平ト異リ概ネ地位アリ財産ヲ有スル方ノ
有志ニシテ真ニ国家ノ前途ヲ憂ヒ
根本的改革ヲ企図シ政府ニ対スル国民ノ
唱ヘタル根本的改革ナルモノハ別紙意見書
ニ於テ本官ハ加藤公ノ要求ニシテ国家
ヲ維ノ時ニ際シ新ニ要求シタル者ヲ
非難ス国者ト同視シ居レリ之ヲ我国者ト
同和スルノ方便ハ政府ニ於テ
政府ニ改革ヲ
意ヲ以テ内政改革ノ意志ヲ表シ
ヲ以テ内政改革ノ意志ヲ表シ
ヲ以テ内政改革ノ意志ヲ表シ

在独日本公使館用

在ル大臣事ヲ会シ事任セラレタルヘシ同氏カ再ヒ
露西亜政府ニ実権ヲ握ラルヘキ傾向アルヲ暗
示シ居レカメキ又公論ノ面ハ改革運動ハ多数
ノ者ヲ大学ヨリ生ス及社会党ヲ以ホノ過激改
論ニ同情ヲ表セスト国家政治ノ極ハ二箇ノ
陣営ヲ為シ漸進論者ハ多数ニ富ミ現政ノ弱
点ヲ急進論者ハ専ラ其ノ破綻ヲ指摘シ的改革ヲ期
待シ二民第ナレトモ主張スルヒトモ
注目スヘキ政策ナキト思料セラレ其ノ
是ホ改革運動ハ多分ハ至尊望政府ノ
ヒトナラサリシトヲ直ニ革命的手段ニ訴フルカ
故候ハ旨新ニ之ヲ認ムルヲ為ス蓋シ露民
ノ為ニ慶ル上ニ上帝ヲ信仰シ
代表者トシテ露帝ニ
ニコライ皇帝ヲ
手段ニ訴フルノ為ニ
皇室ハ
制改府ニ抵抗シ
別運ヲ
並ニ勢力
及ス
露西政府
教ス
面露西政府カ
ノ為ニ露民ハ概ル上ニ上帝ヲ信仰シ露国ニ於テハ信仰
ヲ以テ露帝ニ帰服シ又軍隊ハ国威
ヲ載セ
ヒ
ヒ
ヒ

方針ヲ基礎トシテ外来思潮ニ基キ経済
上ノ審議ヲ重ス居レリ国内政改良上
一般ノ進歩ヲ為ントスルニ在リ事実ナルモ
之カ改革ニ当リ満足セシメスシテ却テ
人ヲ失望ニ招クニ心ヲ以テ見レハ国内改
革ノ将来ニ為ス事ナリト思ハルモ敢テ迂言ニ
アラスト思料セラレ申ス
政府ニ於テ近来国ヲ挙テ事ニ依レハ内政
改革ニ関スル勅旨及ビ
国政府ノ告示ニヨリ後和セラレスシテ却テ
ヲ勢ヲ増長スルノ観ヲ示シ居リ伝之ニ
支那ニ伝ヲ及ボシ モスクワ ゼムストヴオ
十二月二十日ヲ以テ開会シ 露国ツルベ(コイ)公爵
在獨日本公使館用

開会ニ際シテ露国現在ノ地位ハ雅ニシテ
日本トノ不幸ナル戦争ハ何ノ時終局ヲ告ルヤ
未タ豫知スルヲ如サルニ理論上ノ恐慌ニ著シク
全国ニ波及シ且国内人心ノ動揺甚シク
露国ノ覆轍ヲ踏ミ国家ノ安寧ヲ脅セリ
政府ハ此ニ対シ自己ノ責任ヲ解除スル
為メ三千万留ヲ支出シ私ニ公ノ機関ニ
基金ヲ以テ「ユサ」ヴイッチ、「セレキエイ」ト名ツクル政
府ニ対スルサンドノ機ヲ捉ヘ進ンテ内閣ノ
与ヘタル保証ニ依レハ国内人民ニ
異ヤ「ゼムストヴオ」ニ対シ私ニ国権ヲ要求
権利ヲ与ヘ新「ゼムストヴオ」ノ行動セシ
自主義ノ主義ニヨリ彼ノ上下ニ達セシ

REEL No. 1-1079
0155
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

「ビユーロクラーレー」ノ現改ヲ変更シ人民ノ自由撰出ス
ヲ傍ン代表者ヲ集ムノ時来ル遠ニアラサレ
ト信ス而シテ国家ノ基礎ハ法律効力
確定不動ニシテ個人ノ侵権ヲ防ク事四民
皆平等ノ権利ヲ享ル事ハ信教言論ノ
自由ヲ認ル事ヲ始メテ明ニスルヲ以テ皇室ト
人民トノ協合輩国ニテ始メテ相聞ノ音
徴ヲ進陳スルヲ以テ宜シキニ近ク所アラゼム
コトヲオモフ儀ハ宣言ニ曰全キ上犯ノ意味ヲ
アラハル自主事ノ上書ヲ可受ヲ以テ並ニ翌三年
七月内政改革ニ関シ勅旨及ヒ改革ノ告示
官撰ヲ以テ公表セラルヽ及ヒ時ノ政事
撰ヲ設ケ一言ニ動カサレタル所ノ意ヲ
失望ヲ為ムモト見ヘ本年ニ於テハ
三年四月ニ議員選挙ヲ行ヒ議事ノ
業ハ現在議場ノ真ニ熟議セラレ
会ハサル他ノ多ク九百四年十二月三十七日勅旨
ヲ以テ議会ヲ閉ヒ之ヲ無期休止スト
雖モ議会ヲ招集シ多数ヲ以テ之ヲ要シ
日会ハ之ト共ニ各期休会ヲ為ス者ニシテ
議員ハ自由ヲ抱ク者会
シ七百六十六名ノ最大多数ヲ以テ議員ニ
富ム権ヲ附与セサル限リ別段ノ和議ヲ
サルヲ以テ自由ト平和ヲ全力ヲ尽ス者ト
解スル所アリ中ニ恰モ軍隊及ヒ警察
部カ「ニコライ」一世ニ対シテ起ス陰謀

在獨日本公使館用

REEL No. 1-1079

0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

今八百三十五年ナリシ頃ナポレオン第一革命失敗ノ
記念ノ為ニ官立ノ大学ヲ建テ
ラレタリ校長ハ文学者ニシテ
記者ナリシトキニ於テモ注目スベキ人物ト思ハル
重ナル政治ヲ内ニ政府ノ逆ヲ
備兵ヲ以テ政府ノ負担ヲ
除キ之ヲ国庫ニ移ス
ツヽアリ又モスコシ
市府ハ全国ノ重ナル
ハ政府ニ建白スル
種ノ方面ニ於テ政府及対外
ヨリ政府ハ地方ノ
重ニシテ市府ニ於テ
ヲ防ノ為ニ官吏ハ自由ニ
暗殺ノ命令ヲ
ヲ防害セントスル
消息ヲ察セラレ
国内情ニ付テハ
故ニ当時ニ
殺ニ事ヲ
ヲ見ル時ハ
考ヘルニ
建国ノ
ニ市府ハ
政府ハ
市ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

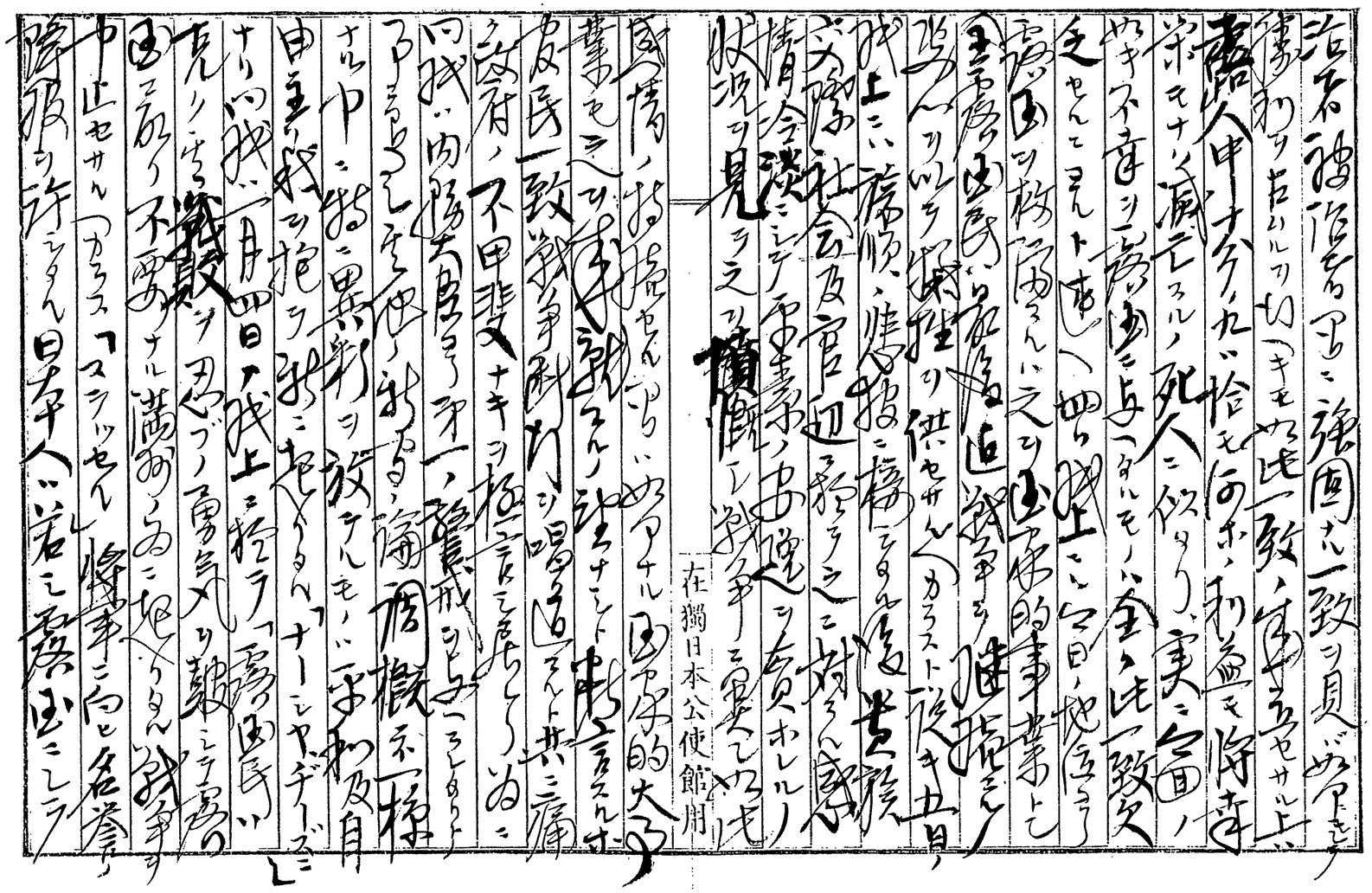
一度出師ノ命ヲ被ル
又度出師ノ命ヲ被ル
若シ大出師ニ及ハヽ之ヘカラサル
的勇気ヲ保持スルコト緊要ナリトスレバ五人
彼ノ降服ニ至ルマテ勇敢ニ戦ヒタル
順守備兵ノ精神ニ習ヒ勇気ヲ興
奮セサル可カラス、実ニ藤原防衛ハ
ヤシタル我ハ脆ノ如ク及精鋭ナル日本軍ヲ
招ヲ以テ七月中ノ久シキニ及ヒタルモ
功ヲ奏シ益ニ帰ヲ
今ヤ藤原守備
既ニ勇者ヲ
加ヘ為ハ我ハ聖四ノ戦上ニ於テ飽ク
在獨日本公使館用

命ヲ捷ニ
ヲ自的ヲ達セサル
ヲ唱ヒ更ニ五日戦上ニ於
ヲ帝ヲ
言ニテ帰ル必ス
ヲ好ム所ニ任ス
事実ニ備ヘテ
彼ノ責任ヲ
既ニ同盟ヲ
ノ中ニ
防衛ニ
責任ヲ同ハ
国家ハ
ニ
勢力

REEL No. 1-1079

0160

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/



在獨日本公使館用

REEL No. 1-1079

0161

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

更ニ大ナル敗北ヲ喫スルニ至ル日本ハ安南モ
又更ニ大ナル敗北ヲ喫シタリト思ヒテ世界平和ヲ求メナ
ケレバナラヌ筈ノ平和ヲ破ラントシテ勝敗モ
サルコトナレ唯一ノ目的ニヨリ今ヤ四十
万人ノ壮丁ヲ平和的事業ニ従セシメントスル時期
ニ於テ犠牲ヲ強ヒラレタルコトハ誠ニ遺憾ニ堪ヘザル所
ナリト論ズルニ由リ公平一致
戒ノ書ケタルニ原ヒテ平和論ヲ唱ヘテ五人若シ
成ニ高人ニ賛スニ高ラ以テモ
国民奉ヲ高ラ以テ
以テ戦争ヲ中止セヨ
蓋シ敗北ニ敗北セシメタルモノハ高
面目ニアラスシテ後悔
陪陪ナル「ビヨロクラシー」ノ胃ヒ
ダルニ一ノ高ラ以テ又夢ナリト宣言シタル
ヲ以テ「ビヨロクラシー」ニシテ
準備ノ不充分ナリシモノ亦「ビヨロクラシー」ナリ
今ヤ「ビヨロクラシー」ハ勝利ヲ占ムルノ
力ノ有セシニ内心実ニ平和ノ希望ニ
ルモ
苦境ニ立テリ
ニ対スル他位ハ金ノ上ニ乗リ五人ハ
若シ出ハ人民ハ利益ヲ
疑理ヲ無ニ陽
倉設府ト

在獨日本公使館用

REEL No. 1-1079

0162

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

アラサルヲモテ泥縄セサルヘカラス露国人ニ事和ノ日
本ニ求ムルハ正義力ナルカ為ニアラスシテ全国
益々戦争ヲ為ス欲セサルヲ以テナリ勢力ヲ消耗スル
トヲ欲セサルヲ以テナリ満州及朝鮮ハ日本ニ緊要ナル
ヲ以テ露国ハ高上ニ同盟国ナルヲ以テ
支那及朝鮮ヲ解放シ之ヲ放棄シ
ハシ上ハ償金ヲ求ムルハ露国ノ為ニ困難ヲ来セル事
露国ハ一寸ノ土地タリトモ
露国ハ割譲スルヲ能ハス其人
カ平和ノ声ニ対シ欣然之ニ應ス之カ信
セサルヲ欲スル者唱後ニ出ナーシアディズムノ如
スロボーヲ和平ノ利ヲ唱ヘ左ヒトモ概
ネ平和ノ利ヲ唱ヘ

在獨日本公使館用

ヒテ露国ハ日本ヲ降ス
ヒ及ハ戦ハ論旨ヲ降
又ハ戦ハ内ノ責ヲ内ハ免モ角
表面上ハ振旗陽服ハ歩来ラ
事ハ重大ナル
戦争ヲ指
ヒテ日本ヲ圧服セ
ヒ失敗セン
ヒ面目ヲ
ヒ制政治ノ責
ヒ内ノ長カラシメント欲スル
ヒ共ニ内改革ニ要スル
民間教興ノ動モスレハ革命的状態ニ
陥ルノ虞アリ又他方ニハ海陸戦闘ニ
益々不利ノ重ラ来ス甚タ危険ニ陥ルノ危険アリ

REEL No. 1-1079

0163

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

REEL No. 1-1079

0164

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

四月以降ノ騒擾ニ止マラスシテ国家及皇室
帝国ノ存立ニ対シ極メテ危険ナル一般社
会状態ノ反射ナリト云フヘシ而シテ此事
帝国ニ於テハ既ニ之ヲ目下発生シツヽ
アル騒擾ニアラスシテ革命ナルコト
及之ヲ思ハシメ所次第国民ノ心ニ浸潤シツヽ
アル事ヲ以テ皇室ノ革命ヲ防止
スルノ道唯一アリ即皇室ノ国民及世界ニ
体シ信用スルニアリ若シ事茲ニ至ラハ帝国
臣民ハ如何ニ実ニ深厚ナル流血ノ惨ヲ見ルヘキヤ
ヲ知ラス実ニ此ノ機会ヲ逸スレハ再ヒ
実際収拾シ難キヲ如何ニ

在獨日本公使館用

国家危急ノ時ニ当リ黙視スルニ忍ヒス敢テ
皇室ニ向ヒ忠言ヲ自ヒ奏シ
聖慮ノ至ニ耐サルモ我良心ニ対シ快目
ヲ懸ナルヲ以テ敢テ此ニ及ヒ
奏聞スルニ付テハ右書簡ノ文面
若シ考セラレサルモ本日接受ノアスボ、ジュデニエ
弱武ヲナ子爵及前侯爵ノ事実ヲ考
フレハ右ノ書トハ前掲十二月二十六日モスコウ
マセムストヴオレノ張氏ニ係ルモノヲ指シテ書
簡ハ今有ニテ公表セラレタルモノ
ナラントト思ハル、特又右書簡ノ文中ニ俗
世大革命ノ語ヲ引用シテ流血ノ惨
ニ革命ノ状態ニ在ルモノヽ如ク感ハセシムル為

REEL No. 1-1079

0165

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ヤキ消滅激ニ失スルノ嫌ナキニアラス　右内公爵
ニ於テ前ニ建タンカ為メモスコシノゼイストヲ
開会ノ初ニ於テ自己ノ意見上書
可為セラレサルヲ以テ熟考セシニ是モナキ始日
ノ電ニ自己ノ政信ニ翻覆セシ事ノ
勅旨及政府告示ノ出タルヲ見テ大ニ失
望且激昂ニタリシナリ（ノミナラス）ホニ事情ノ
ヨリシテ自然激烈ナル言説ヲ用ヰテモ
却セラレ免ル共免モ国内公爵ヘカキ有
力者ノ口ヨリ出ハ直言言語ノ少シ
モ一ハ二ハニ憂国内情ノ紛擾甚シキ動
モスレハ革命的内乱ヲ見ルニ至ルノ傾向アル
コトヲ示スモノト認メテ大迫ナカル（シト思ハル）

在獨日本公使館用

立憲
右電信ノ説明ヲ了及其報告
明治三十八年一月七日
在独特命全権公使井上馨ヨリ
外務大臣男爵小村寿太郎殿

（小村署スス）

REEL No. 1-1079

0166

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/